

## クリスチャン生活と召会生活とにおける神の王国の発展

(金曜日——午前の第二の部)

メッセージ 2

隠された生活をすることによって王国の生活をする

聖書：イザヤ 45:15. 37:31. マタイ 6:2-4, 5-15, 16-18. 14:22-23. 詩 42:7. 雅 4:12

- I. わたしたちは、主の模範から学ぶ必要があります。主は祈るために一人で山へ登り、隠された生活をしました——マタイ 14:23. 参照、ルカ 6:12 :
- A. 彼は、群衆と共に奇跡（女と子供を別にして、五千人を養うという奇跡）の結果にとどまらずに、彼らから離れて一人になり、山の上で祈りの中で御父と共にいました——マタイ 14:14-23 :
1. 主が強いて弟子たちをご自身から去らせたのは、彼が一人になって、父と祈る時間をさらに多く持つためでした——22-23 節。
  2. 彼は、一人になって、天におられる彼の御父に祈る必要がありました。それは、彼が天の王国の設立のために地上で行なうどんな事においても、御父と一になり、御父と共にいていただくためでした。彼は、荒野においてではなく、山の上で祈りました。彼はすべての人から、彼の弟子からさえも離れて、一人で御父と接触しました。
- B. わたしたちは、「御父と共にいる」、「山の上で」、「祈りの中で」という三つの句を尊ぶべきです :
1. 他の人たちと祈ることは良いのですが、しばしばわたしたちは一人で祈る必要があります。わたしたちは他の人たちと祈るとき、一人で主に祈るときほど深く主を享受することができません。
  2. さらに、主イエスは、わたしたちが祈るとき、一人で戸を閉めて、隠れて見ておられる御父に祈るべきであると、わたしたちに告げました（マタイ 6:6）。その時、いかに彼がわたしたちに対して親密であるか、またいかにわたしたちが彼に対して近くあるかを、わたしたちは感じます。
  3. わたしたちは、群衆、家族、友人、召会の中の聖徒たちから離れて、さらに高い水準の「高い山」へと行くことを学ばなければなりません。わたしたちはさらに高い所へと行き、低い水準の地的な事から遠く離れなければなりません。わたしたちはさらに高い水準へと到達して、群衆から離れ、一人でひそかに御父と共にいて、彼と親密な交わりを持つ必要があります。
- II. 王国の民の原則は、彼らが隠された生活をして、自分の義なる行為を人の前で表現しないということです。これらの行為とは、与えること（マタイ 6:2-4）、祈ること（5-15 節）、断食することです（16-18 節） :
- A. これら三つの事例のそれぞれに関して、主は「隠れて」という言葉を用いました（4, 6, 18 節）。わたしたちの御父は「隠れて」おられます。また彼は「隠れて見ておられます」。王国の民は、天の御父の子供たちとして、御父の隠れた、また隠されている臨在の中で生き、それを顧みなければなりません。

- B. 王国の民は、王国の天的支配の下で、空にされた、へりくだった霊の中で生き、また純粹で単一な心をもって歩きます。彼らは、人の称賛を得るために肉の中で何も行なってはならず、彼らの天の御父を喜ばせるために霊の中ですべての事を行なわなければなりません。
- C. わたしたちの義なる行為を隠れて行なうことの効果は、自己と肉が殺されるということです。社会の人々が、さらには墮落したキリスト教の人々が、自分の良い行為を見せびらかすことが許されないなら、彼らはそれを行なわないでしょう。自己は栄光を受けることを愛し、肉は注目されることを愛します。
- D. 隠されることなく成長する聖徒たちは、健康に成長しません。わたしたちはみな、命の中での隠れた成長、キリストに対する隠れた経験を必要とします。わたしたちは隠れた方法で主に祈り、主を礼拝し、主と接触し、主と交わる必要があります。
- E. わたしたちは多く祈るべきですが、わたしたちがどれほど多く祈っているかを他の人たちに知らせるべきではありません。わたしたちが毎日祈っても、他の人たちに告げることをせず、あるいは他の人たちにそれについて知らせることをしないなら、それはわたしたちが健康であり、成長しつつあることを意味します。
- F. 王国の民は、密室で祈る経験を持ち、隠れておられるわたしたちの天の御父と接触し、御父に対する隠れた享受を経験し、彼から隠れた答えを受けなければなりません——6節。
- G. どんな時であれわたしたちが自分の義なる行為において自分自身を見せびらかすとき、わたしたちは健康ではありません。そのような見せびらかしは、わたしたちの命の成長を大きく妨げます。
- H. わたしたちの人の命は、誇示すること、公に見せびらかすことを愛しますが、神の命は常に隠されています。偽善者とは、外側の現れを持っていても、内側に何も持っていない人です。
- I. わたしたちは天然の命の中で、隠れた方法で隠された生活をするを実行することは決してできません。これは、神聖な命、見せびらかすことを喜ばない命の中でのみ実行することができます。もしわたしたちが王国の民となることについて真剣であるなら、わたしたちの御父の隠された命によって生きることを学ばなければなりません。
- J. 宇宙は、神が隠されていること、神が隠れておられるを示しています。もしわたしたちが神の愛によって他の人たちを愛するなら、この愛は常に隠されたままであるでしょう。

**Ⅲ. 「まことに、イスラエルの神、救い主よ、あなたはご自身を隠す神です」——イザヤ 45:15 :**

- A. 信者たちは、神が全能の方であること、義なる方であること、恵みと慈愛に満ちた方であることを知っていても、神がご自身を隠す方であることを知らないかもしれません。
- B. 神は、ご自身の民の間で無数の事を行ない、また彼らの個人的な生活の中で無数の事を行ないます。しかし、神はご自身を隠します：
  - 1. 神は隠すことを好みますが、わたしたちは誇示することを好みます。神は外側の

現れを求めませんが、わたしたちはそれがなければ満足することができません。

2. 神は、カルメル山で明らかにエリヤと共にいました。しかし、神がご自身の明らかな臨在を隠したとき、エリヤはそれに耐えることができませんでした——列王上 19:9-18 :
  - a. エリヤは神にご自身を現す神になってもらいたいことを、神は知っていました。エリヤは、神がご自身を隠す神であることを認識していませんでした。
  - b. 神は大きな強い風の中におられませんでした。神は地震の中にもおられませんでした。神は火の中にもおられませんでした。神は、「かすかな静かな声」の中でエリヤに語りました—— 12 節。
  - c. エホバがエリヤに、かすかな静かな声で語ったという事実は、神がエリヤを新約時代にもたらししていたことを示します。新約時代において、神は彼の民に対して、雷によってではなく、かすかに、静かに語ります——参照、I ヨハネ 2:27。
  - d. エリヤは神に対して、残された忠信な者は自分一人だけであると言いました。しかし、神はとても優しくエリヤに答えて、バアルにひざをかがめなかった七千人をご自身のために取っておいたと言いました——列王上 19:18. 参照、ローマ 11:2-5。
  - e. エリヤは、見える事だけをもって考えていましたが、神はご自身を隠す神です。神は、バアルにひざをかがめなかった七千人の勝利者を、ご自身のためにひそかに取っておきました。神の活動はとても隠れていたのので、預言者エリヤでさえそれについて何も知りませんでした。
- C. わたしたちは、神の働きの隠された性質を認識する必要があります。わたしたちは、大きな影響力、偉大なビジョン、驚くべき啓示だけが神から出てくるものであると思うべきではありません。神の最も確かな働きは、わたしたちの存在の隠れた所になされます :
  1. わたしたちは主に仕えれば仕えるほど、また主の中に住めば住むほど、神がとても静かな神であることをますます認識します。神の臨在が気づかれないほどまでに、神は静かであるのです。
  2. 彼がわたしたちを導く最も親密な方法は、とても自然であるので、わたしたちは、彼がわたしたちを導いていることにほとんど気づきません。しかしながら、ともかくもわたしたちは導かれてきました。しばしば、この静かな内側の神の活動によって、わたしたちは最も大いなる導きを受けます。
- D. ひとり子が神を告げ知らせるために来られたとき、彼はご自身を人の命の中に隠しました。すなわち、外側の現れが「損なわれ」ていた人の命の中に、「見るべき形もなく、威厳も」ない人の命の中に隠しました——イザヤ 52:14. 53:2 :
  1. 彼は、重要でない州のガリラヤから、小さな町であるナザレの町から出て来ました。そこからは預言者や名声のある人が出たことはない、ユダヤ人によって言われていました——ヨハネ 1:46. 7:52。
  2. こういうわけで、彼が現れたとき、人々は、神が彼の中にいると信じるのが難しかったのです。人々は、彼が神の預言者であると信じることでさえ難しかったのです。しかしながら、神はナザレのイエスの中に隠されていました——参照、

コロサイ 2:9。

3. また、ナザレのイエスは、貧しい家庭から出て来て、成長して大工になりました。彼はとても平凡な大工であり、とてもささやかに仕事をし、三十歳になるまでそうでした。無限の神が彼の中に内住しているなどと、だれが思ったことでしょうか？
- E. もしあなたが聖書を注意深く調べるなら、神には見せびらかすことを嫌うという気質があることがわかるでしょう。彼は、公にではなく、隠れて働くことを好みます——マタイ 17:1-9. ヨハネ 20:14-17. ルカ 24:13-37. ヨハネ 20:24-29. イザヤ 39:2-8 :
1. 「あなたがたは、その方を見たこともないのに愛しており、その方を今、見ていないのになお信じており、言葉では言い尽くせない、栄光に満ちた喜びをもって歓喜しています」。信者たちが、見たこともない方を愛しているのは、驚くべきことであり、奥義です—— I ペテロ 1:8。
  2. 主の復活の後、主に従う者たちに対する主要な訓練は、主がご自身を隠す神であることを知ることにあります。
  3. 神のエコノミーのあらゆる事は、キリストをその中心性また普遍性としており、これは見える領域の中にあるのではなく、見えない雰囲気と信仰の領域との中にあります—— II コリント 4:13, 16-18. 5:7. ヘブル 11:1. エペソ 3:17 前半. I テモテ 1:4 後半。
- F. わたしたちが最も無力であることを感じる時、神は最も力強くわたしたちと共におられます—— II コリント 12:9-10 :
1. ご自身を隠す神は、わたしたちの生活の中で働いており、また力強く働いています。
  2. わたしたちの責任は、内側の主の声に応答することによって主と協力することです。その声は、「かすかな静かな声」であり、わたしたち自身の感覚の一部であるかのように思われるので、それが主の声であるとはわたしたちもほとんど気づきません。
  3. わたしたちの存在の最も深い所で受けたその声に対して、わたしたちはアーメンと言わなければなりません。なぜならそこにおいて、ご自身を隠す神はひそかに、やむことなく働いているからです。

#### IV. 詩篇第 42 篇 7 節は、「淵は淵へと呼びかけ」と言います :

- A. 他の人たちは、わたしたちの内側の深みから出て来るものだけに対して、内側の深みから呼応することができます。深みから出て来ていないものはすべて、決して他の人たちの深みに到達することができません。
- B. 王国の生活は、深みにある生活、すなわち、「下に根を張り、上に向かって実を結ぶ」ことができる生活です——イザヤ 37:31. 参照、使徒 6:7. 12:24. 19:20。
- C. 一方においてわたしたちは、命の種としてのキリストに、良い地（マタイ 13:23）としてのわたしたちの心の土壌の中に深く根を張っていただく必要があります。他方において、わたしたちはキリストの中にある生きた植物として、良き地の実際であるすべてを含むキリストの土壌の中に深く根を張る必要があります（コロサイ 2:6-7） :

1. 良い地が表徴するのは、世的な往来によってかたくなにされていない、隠された罪のない、この時代の思い煩いや富の惑わしのない良い心です。わたしたちは日ごとに、主にわたしたちの心の中のこれらのものを対処していただく必要があります。それはわたしたちが、神の増し加わりによって成長することができるためです—— 19 節。
  2. わたしたちは良き地の実際であるキリストの中へと植えられているので、時間を費やして（特に、主との朝の時間において）、彼を吸収する必要があります。
- D. 種まく者が種をまいたとき、ある種は道ばたに落ち、ある種は岩地に落ち、ある種はいばらへと落ち、ある種は良い地へと落ちました。これがわたしたちに見せているのは、人が御言を受け入れるのに四つの異なる方法があるということです——マタイ 13:4-8, 18-23 :
1. 主イエスはわたしたちに告げていますが、これらの異なる状況のうちの一つは岩地です。表面には土が少ししかなく、その下には岩があります。種がこのような土地に落ちると、それはすぐに芽を出します。しかし、太陽が出るやいなや、それは根がないために枯れてしまいます—— 5-6 節。
  2. 根とは何でしょうか？ 根とは、地面の下で成長するものです。葉とは何でしょうか？ 葉とは、地面の上で成長するものです。
  3. 言い換えれば、根は隠されている命ですが、葉は現されている命です。多くのクリスチャンの問題は、見ることでできる命はとても多いのですが、隠された命があまりにも少ないということです。言い換えれば、隠された命に欠けているということです。
  4. もしあなたの経験のすべてがあらわになっているのであれば、あなたの成長はすべて上に向かっており、下に向かって成長はありません。もしこうであるなら、あなたは葉だけがあって根のない人であり、浅い地の人です。
  5. クリスチャンで、自分のすべての美德を人の前であらわにし、自分の存在の深みに何も持っていない人は、根を持っておらず、試みや誘惑の日に立つことができませぬ。どうか神がわたしたちの中で働いてくださり、わたしたちが下に根を張ることができるようにしてくださいませぬように。
- E. わたしたちは使徒パウロのように、キリストに対する深い経験を必要とします—— II コリント 12:1-4 :
1. パウロは第三の天に取り去られ、パラダイスの中へと取り去られましたが、十四年後までこの経験を打ち明けませんでした。パウロの根は、地の下に深く張っていました。
  2. もしわたしたちがパウロの働きを持ちたければ、パウロの「根」を持つ必要があります。もしわたしたちがパウロの外側の振る舞いを持ちたければ、パウロの内なる命を持つ必要があります。もしわたしたちがパウロの明らかにされた力を持ちたければ、パウロの隠れた経験を持つ必要があります。
  3. これは、わたしたちが証しをすべきでないことを意味するものではありません。しかし、わたしたちは認識しなければなりません、多くの経験は隠されている必要があります——参照、4:5。

4. 根がないとは、隠されている宝が何もないということであり、隠された命や隠された経験が何もないということです。わたしたちのある経験が覆われているのは、不可欠なことです。すべてを覆わないことは、すべてを失うことです——参照、イザヤ 39:2-8。
- F. わたしたちが主に対して持っている秘密は何であれ、保護されなければなりません。主がわたしたちの中で動いて、ある事を明らかにするときのみ、わたしたちはあえてそれを明らかにします。わたしたちがある経験を一人の兄弟に分け与えることを神が願われるなら、わたしたちはそれをとどめません。なぜなら、それをとどめることは、キリストのからだの肢体の法則、すなわち、交わりの法則に違反するからです：
1. わたしたちは、キリストのからだは何であるか、また肢体たちの間の命の流れが何であるかを学ぶ必要があります。しかし、わたしたちはまた、わたしたちが主の御前で持っている隠された部分、すなわち、他の人たちに知られていないキリストの経験を保護する必要があることも学ぶ必要があります。
  2. もしわたしたちの生活に深みがなければ、わたしたちの表面的な働きは他の人たちの生活に表面的な影響を与えるだけです。「淵だけが淵へと呼びかけます」。
- G. 純粹で麗しい靈的生活は、内側の、隠された、絶え間のない神との交わりから出て来ます。こうして、「彼はゆりのように花咲き、レバノンの木のように根を張る」(ホセア 14:5)。このような生活が、多くの実を結ぶことができます—— 5-7 節。
- H. 深みのある生活をするためには、主との直接的で親密な交わりを持つ必要があります。雅歌第 4 章 12 節は言います、「わが妹、わが花嫁は、閉じられた園、閉じられた泉、封じられた源泉である」：
1. この時点で、主の愛する追い求める者は、その靈的な進歩において、キリストの個人的な満足のための園となりました。
  2. 彼女は公の園ではなく、閉じられた園です。彼女の持っているすべては、彼女の愛する方の喜びのためであって、他のだれのためでもありません。
  3. もし今日の信者たちがさらに多く閉じていて、さらに堅く封じているなら、彼らの働きはさらに優勢になっていることでしょう。
  4. どうか主がわたしたちに恵みを賜わり、十字架を通してわたしたちの中でさらに深い働きをしてくださいますように。それは、わたしたちが深く根を下ろし、深みのある隠された生活をし、神の要求を満たし、神の心を満足させるためです。